

飼料イネの栽植密度と乾物収量の関係					
[要約] 飼料イネの乾物収量は品種及び栽植密度で異なり、「ホシアオバ」、「ニシホマレ」は21株/m ² が、「クサホナミ」、「スプライス」は14株/m ² が乾物収量が高い。また、「西海203号」は栽植密度による収量の差は小さい。					
担当部署	畜産研究所・飼料部・飼料作物研究室			連絡先	092-925-5229
対象作目	飼料作物	専門項目	栽培	成果分類	技術改良

[背景・ねらい]

転換水田における主要作物は、大豆、麦、飼料作物が代表的な作物であるが、水田に適した作物として飼料イネが注目を集めている。しかし、飼料イネを粗飼料として利用する場合、ホールクロップサイレージ利用するための品種の選定、低コスト生産のための省力かつ多収栽培技術が確立されていない。

このため、本県に適した飼料イネの品種を選定するとともに多収となる最適栽植密度を明らかにする。(要望機関名：畜産課、飯塚農林、筑後農林(H12))

[成果の内容・特徴]

1. 最適栽植密度は品種によって異なり、ホシアオバ、ニシホマレは21株/m²(16cm株間)で、クサホナミ、スプライスは14株/m²(24cm株間)で乾物収量が高くなる。
また、西海203号は栽植密度による収量の差は小さいが、密植の方が多収となる傾向がある(表1)。
2. 栽植密度を低くすると、育苗労力を減少させることができるうえ、品種によっては乾物収量の増加が望める(表1)。
3. クサホナミは籾数及び籾収量割合が多く、高TDN粗飼料としての利用が期待できる。

[成果の活用面・留意点]

1. 飼料イネ栽培の参考とすることができる。
2. 普通期移植の成績であるため早期移植には適応できない。
3. 防除は発生予察にもとづき必要最低限にとどめる。

[具体的データ]

表1 飼料イネ収穫調査結果 (平成13年度)

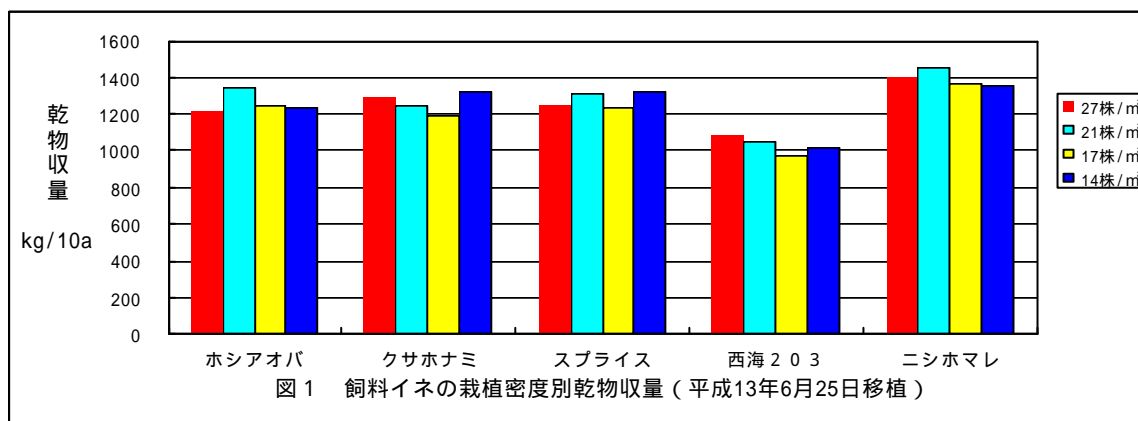
品種名	刈取 月日	栽植密度 株/m ²	草丈 cm	茎数 /m ²	1穂 穂数	籾割合 DM%	乾物率 %	生草収量 kg/10a	乾物収量 kg/10a
ホシアオバ (中国146号)		27	116	332	105	48.9	34.6	3512	1220
		21	117	357	118	51.6	34.3	3934	1347
		17	116	339	132	50.8	34.1	3629	1238
		14	113	326	126	51.0	35.4	3492	1236
平均	10/4		115	339	120	50.6	34.6	3642	1260
クサホナミ (関東飼206号)		27	101	412	162	57.6	31.9	4018	1285
		21	101	386	177	56.1	32.2	3850	1240
		17	101	371	174	57.5	31.9	3728	1186
		14	103	371	178	59.8	33.7	3919	1321
平均	10/16		101	385	173	57.8	32.4	3879	1258
スブライス		27	124	290	132	50.6	39.2	3153	1237
		21	118	283	152	47.9	39.4	3321	1308
		17	120	259	134	55.2	39.1	3143	1229
		14	118	253	143	54.8	43.1	3071	1323
平均	10/15		120	271	140	52.1	40.2	3172	1274
西海203号		27	84	417	125	52.3	37.0	2923	1083
		21	82	426	131	50.0	35.6	2943	1046
		17	81	366	129	50.2	35.1	2771	974
		14	80	393	130	48.3	35.4	2859	1012
平均	10/15		82	400	129	50.2	35.8	2874	1029
ニシホマレ		27	90	504	79	51.2	42.8	3264	1395
		21	91	495	84	51.5	42.8	3387	1451
		17	90	474	78	52.1	42.2	3227	1362
		14	89	454	88	52.6	43.2	3135	1354
平均	10/15		90	482	82	51.8	42.7	3253	1390

注) 1. 移植日:平成13年6月25日

2. 移植法:手植え1株4本移植(条間30cm:27株/m²(株間12cm)、21株/m²(株間16cm)、17株/m²(株間20cm)、14株/m²(株間24cm))

3. 施肥量:基肥7kg/10a(窒素分量)、穂肥3kg/10a(同)、収穫期:黄熟期

4. 倒伏状況:いずれの品種も収穫期まで倒伏は発生しなかった。



[その他]

研究課題名:飼料イネの品種選定と多収栽培技術

予算区分:経常

研究期間:平成13年度(平成12~15年)

研究担当者:馬場武志、家守紹光、井上信明、棟加登きみ子

発表論文等:平成13年度畜産関係試験成績書

